

カナダ全土を揺るがす学生のストライキ

カナダ・ケベック州で現在、“Printemps（「春」）2015”とよばれる学生の大打動がまきおこっています。3月21日に続き、4月2日には数万人の学生がモントリオールの中心部に集まり、州政府の緊縮政策に対して抗議の声をあげました。この先も、数ヶ月にわたって数波のデモが計画されています。

昨年末に発表された緊縮政策は、人びとの生活や教育、社会保障、労働条件などを全面的に切り捨てるものとなっており、これに対して学生団体や戦闘的な医療などの労働組合、コミュニティ組織などが実行委員会をたちあげ、闘いを展開しています。

ケベックでは2012年にも、学費の大幅値上げ（7年間で75%増）計画に反対して17万人の授業ボイコット・40万人のデモが行われました。州当局によるデモ制限法案可決も怒りの火に油を注ぎ、3ヶ月にも及ぶ闘いでついには撤回に追いこんだのです。

大学当局は今回、学生9人に対して、この2年間のキャンパスでの抗議行動を理由に1年間の停学、もしくは退学の措置をちらつかせて恫喝しています。州の文部大臣も、「ストライキで校舎の外に出ているような連中に払う予算はない」とし、ストに入った学生に単位は与えないと断言。当該は「政治活動による処分は前例のないこと」と語っています。しかし、10大学の50000人近い学生が少なくとも2週間のストライキに入ることを宣言しています！



フランス語を公用語とするケベック州。横断幕にみえる「社会的ストライキ」（昨年11月、イタリアでのストライキでも掲げられました）ということばには、学生のみならず全社会の労働者もまきこんだ闘いにしたいとの意図がこめられているそうです。

Join us, please!



☆みんなで作業しよう！（翻訳など）

闘いの報告や声明、資料などの翻訳・発信等に、ぜひご協力を！

☆学習会をはじめよう！

メンバーの問題意識にあわせて行っていけたらと考えています♪
ex. 世界各国での学生の闘い、入管問題など

発行：全学連（全日本学生自治会総連合）国際部

Tel：090-1845-7062（内田） / Mail：intl-solidarity@hotmail.co.jp

全学連 国際部通信

April 6, 2015 Vol.8



労働者・学生が団結して闘いにたちあがれば、世界をまるごと変革することができる！日々全世界でまきおこる闘いは、そのことをはっきりと示しています。この通信は、そうした闘いにスポットをあてるのみならず、実際の交流をも通して、日本での自分たち全学連の闘いの方向性を鮮明にし、大きな闘いをつくりあげるためのものです。留学生をはじめ、さまざまな大学の仲間とともにこの通信をつくってゆきたいと思います。投稿も随時募集しています！

6・15 国会包囲大闘争

終日、国会デモや座り込みを予定

4・28 沖縄デー闘争

13時半、法政大学・市ヶ谷キャンパスからデモ出発

16時、新橋駅から国会へデモ、終了後に国会議事堂前で座り込み

韓国 民主労総、4・24ゼネストへ！



「民主労総は切迫した思いで労働者と庶民を生かすゼネストを宣言し、パク・クネ政権に対する全面闘争を宣言する」（ハン・サンギョン委員長による対政府要求から）

「これは単なる労働者の闘争ではなく…（中略）…時代の転換の開始である」（ゼネスト宣言記者会見での共同闘争決意文から）

いよいよ今月24日、韓国・民主労総がゼネラルストライキを決定しようとしています！日本から、4・28闘争で連帯しよう！

☆特集 政府の教育政策にたちむかうビルマ学生運動

「学生の組織をつくろう！」 既成政党をのりこえる闘い

中東やウクライナを焦点に戦争が火を噴く中、各地でさまざまなかたちをとった学生の闘いがまきおこっています。ビルマ（ミャンマー）では、名ばかりの「民政移管」体制に抗し、工場労働者が賃上げを要求してストライキにたち上がっています。こうしたなかで3月10日、機動隊が教育改革に反対する学生のデモ隊に暴力をふるい、127人も拘束するという事件がおこりました。

今も勾留されている学生の解放を求め、国内だけでなくスリランカやマレーシア、タイなどのアジア全域で抗議行動が続いています。



社会を動かしてきた学生の闘い

植民地時代以来、学生運動は「政治活動の最前線」として、常にビルマの歴史を動かしてきました。1988年8月8日には学生を中心に「8888民主化運動」といわれる大きな闘争がまきおこりました。政府との闘いの先頭にたち、難民として日本に来ているかたも多くいます。



1998年に学生主導の非武装のデモ隊を3000人も虐殺するという大弾圧が行われた後、軍事政権は全国の大学を10年間にわたって閉鎖し、あらゆる設備を没収しました。かわりに建てられた大学は設備も乏しく、学生を都市の人びとと切り離すために遠隔地におかれました。そうして高等教育を切り捨てる一方で、新たな指導者層を養成するために、軍に最高の設備と講師陣とを投入したのです。

このように、教育、とりわけ高等教育をめぐる問題は常に政治上の激しい攻防点であり、現在の学生の闘いはこうした体制そのものの変革を求めるものです。

全国縦断デモに追いつめられた政府

闘いの発端は、昨年11月に国会で国民教育法案が採択されたことにあります。この法案は中央当局がカリキュラムや政策などの大学運営への統制を大幅に強め、学問の自由を制限する内容となっており、作年の11月にも約1000人が抗議デモを行いました。

1月20日、政府が要求を退けたことをうけ、数十人の学生が第2の都市マンダレーから最大の都市ヤンゴンまで約650キロのデモに出発しました。ここに全国の学生と教師、さらには労組組合員や保護者、僧侶など数千人の人びとも合流し、いくつかの都市には支援者によってキャンプも設置されました。

しかしながら3月10日、ヤンゴンの北140キロに位置するレパダンで400人もの機動隊がバリケードを築いてデモ隊を阻止しました。そこで約1週間にわたって足止めされた学生たちの座り込みに対して、機動隊が棍棒などの武器をもちいて暴力的な排除を強行したのです。多くの学生が負傷し、127人が拘束されました。



資本の海外進出の陰で

ビルマ政府は民政移管後、経済特区を設けて外国企業の積極的な誘致を進めています。とりわけ「アジア最後のフロンティア」として先を争って進出した日系企業の数は、投資協定の発効もうけ、約200社（昨年10月まで）にのぼっています。2012年には日本

政府が住友商事、丸紅、三菱商事と一体となってヤンゴン郊外のティラワ経済特別区における上水道・下水道・道路・光ファイバーケーブル、次世代電力網といった最先端のインフラパッケージ輸出をとりつけ、今夏には一部稼働が開始されます。

このような「経済発展」の一方で、教育についてはほとんど切り捨て。こうした現実に対し、教育予算の増加と学生・職員組合の結成を求める不屈の闘いが続きます。

学生の闘いがすべてを決する

最後にこの闘いの展望について、タイ『ナショナル』紙の記事から引用します。

「アウン・サン・スー・チー氏が書記長を務めるNLD（全国民主連盟）などの政党は、『国家の秩序を乱す』という政府の非難を引き出すのを恐れてこの抗議行動と距離をおいている。選挙を前に、資格剥奪のリスクを抱えたくないということだ。変革を望んでいるが、既存の政党に属していない人びとこそが、NLDをも含めた現在のシステムを変革する力を持っている。実現の可能性は、学生を支持することによってのみ高められるだろう。民衆が希求する改革の可否は、学生にかかっているのだ。」



連載 〈香港的鬥争不還結束！—香港の闘いは終わっていない！〉

*昨年9月、行政長官の選挙を契機に「真の普通選挙を」と訴え、学生と労働者が金融街を数ヶ月間にわたって占拠した香港の「雨傘革命」。数回にわたり、この歴史的な闘いについてみてゆきます。

②闘いの契機

今回の闘いは、香港の行政長官選挙制度改革を焦点にまきおこりました。

香港がイギリスから中国に返還された1997年、現在の香港の体制を50年間は維持する「一国二制度」制の導入、そして将来の行政長官（行政のトップ）選挙における普通選挙の実施が確約されました。しかしながら、昨年8月の中国の国会にあたる「全人代」で、2017年に行われる選挙における「指名委員会」新設＝中国政府に対して批判的な候補者を排除するとする制度が決定されたのです。



昨年10月28日、金融街の路上は埋めつくされた

これに対し、学生が先頭にたつて「真の普通選挙を」と掲げた闘いが爆発しました。激しい激突のなかで「香港職工会連盟」をはじめ労働者や市民も合流し、東アジア全体を揺るがす闘いへと発展してゆきます。